

民活事業報告書（令和3年度）

事業名：多摩地域ユース・プラザ運営等事業

教育庁地域教育支援部

第1 事業概要

旧東京都立八王子高陵高等学校(以下「学校施設」という。)を改修・整備して運営を行ってきた多摩地域ユース・プラザ整備等事業の終了に伴い、引き続き多摩地域ユース・プラザとして、文化・学習施設、スポーツ施設、野外活動施設、宿泊施設等から構成される施設(以下「本件施設」という。)の一体的な運営を行う。

1 所在地

東京都八王子市川町55番地

2 事業内容

(1) 施設の運営

ア 文化・学習施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

イ スポーツ施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

ウ 野外活動施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

エ 宿泊施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

オ 社会教育業務（講座・体験活動・交流等）の実施

カ 青少年の活動に関する相談への対応並びに情報の収集及び提供

キ 利用者に対する飲食の提供及び物品の販売

ク 文化・スポーツ教室の主催等及び施設を有効利用する観点から行う各種の事業

ケ 施設の利用促進を図るために必要となる営業及び広報活動

(2) 施設の維持管理

建築物保守管理業務ほか施設の維持管理のために必要な一切の業務

3 事業期間

運営を開始した日から10年間とする。

○方式とし、事業期間終了時に都に本件施設等を返還する。

第2 事業評価

1 利用実績

(1) 宿泊利用実績

ア 宿泊室

利用実績						事業者提案	
令和3年度		令和2年度		増減		利用者数	利用率
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b		
11,063人	15.1%	5,552人	9.1%	5,511人	99.3%	33,800人	47%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員204人×営業日数)で除した割合

イ テントサイト

令和3年度		令和2年度		増減	
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b
188人	0.5%	131人	0.4%	57人	43.5%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員100人×営業日数)で除した割合

(2) 活動施設利用実績

利用実績			
令和3年度 (a 利用者数)	令和2年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
90,012人	56,343人	33,669人	59.8%

(3) その他日帰り利用実績

令和3年度 (a 利用者数)	令和2年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
19,322人	14,279人	5,043人	35.3%

(4) レストラン利用実績

令和3年度 (a 利用者数)	令和2年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
55,110人	33,239人	21,871人	65.8%

(5) 利用料金等収入実績

(金額：千円)

種別	令和3年度 (a 金額)	令和2年度 (b 金額)	増減		事業者提案
			a-b	(a-b)/b	
利用料金	52,778	37,984	14,794	38.9%	
その他	6,210	3,668	2,542	69.3%	
合計	58,988	41,652	17,336	41.6%	148,698

※ 利用料金には、備品、活動支援プログラム及び社会教育事業参加費を含む。

※ その他には、売店、自動販売機等を含む。

2 モニタリング

(1) 業務履行確認

ア 履行確認の考え方

都は、事業者が本件契約において定められた公共サービスを提供することを条件として、サービス購入料を支払い、建物及び土地の無償での利用を認める。そこで、都は、都の要求水準が満足されているか否かについて、履行確認を行う。

イ 業務履行確認の方法等

別紙1のとおり

(2) 財務状況等の監視

都による京王ユース・プラザ（株）（以下「SPC」という。）の財務状況等の監視については、本件事業契約上の規定により、事業期間の終了に至るまで、各事業年度の最終日から90日以内に公認会計士の監査済財務書類を都に提出し、かつ、協議会において都に対して監査報告を行うこととしている。

令和3年度分監査報告については、令和4年6月21日の協議会において報告を受け、公認会計士による監査済みであることを確認した。

第3 SPCの経営状況

損益計算書

(令和 3年 4月 1日から)
(令和 4年 3月31日まで)

科 目	金 額	
	千円	千円
営業収益		459,280
営業費用		440,411
売上総利益		18,868
一般管理費		13,399
営業利益		5,469
営業外収益		
受取利息	810	
雑収入	20,576	21,387
営業外費用		
雑支出	1,631	1,631
経常利益		25,224
特別利益		
国庫補助金受入額	499	499
特別損失		
固定資産圧縮損	499	499
税引前当期純利益		25,224
法人税、住民税及び事業税		8,705
法人税等調整額		△ 156
当期純利益		16,676

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

貸借対照表

(令和 4年 3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流動資産	621,109	流動負債	180,231
現金及び預金	1,919	リース債務	6,301
運用預け金	455,316	未払金	161,053
未収入金	146,194	未払法人税等	6,621
未収消費税等	4,237	前受金	3,098
未収還付法人税等	0	預り金	2,911
商 品	520	前受収益	244
貯 蔵 品	1,256		
前払費用	3,370	固定負債	12,603
その他の流動資産	8,293	リース債務	12,603
固定資産	300,267		
有形固定資産	252,507	負債の部合計	192,834
建 物	222,887		
構 築 物	7,448		
工具器具備品	5,462		
リース資産	16,709		
		(純資産の部)	
無形固定資産	0	株主資本	728,542
ソフトウェア	0	資本金	50,000
投資その他の資産	47,759	資本剰余金	50,000
長期前払費用	84	資本準備金	50,000
繰延税金資産	2,655	利益剰余金	628,542
長期差入保証金	45,020	その他利益剰余金	628,542
		繰越利益剰余金	628,542
		純資産の部合計	728,542
資産の部合計	921,376	負債及び純資産の部合計	921,376

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

第4 総合評価

1 利用実績

令和3年度は多摩地域ユース・プラザ運営等事業の7年目となったが、4月から緊急事態宣言などが断続的に発出され、休業や営業時間短縮等の要請を受けるなど引き続き厳しい事業年度となった。

下半期以降は、緩やかな回復の兆しが認められ、学校団体等の日帰りを中心とした利用が増加に転じ、利用者数は前年実績を上回った。宿泊利用実績と活動施設利用実績については以下のとおりである。

令和3年度の宿泊室利用実績は、前年度比5,511人増の11,063人となり、事業者提案時の計画33,800人を22,737人下回る実績となった。活動施設利用実績は、前年度比33,669人増の90,012人となった。

令和4年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、利用者が安心して施設を利用できる環境を整えるようSPCに働き掛けを行っていく。

2 業務の履行状況

運営業務については、全従業員に対しての検温、マスク着用及び手洗い消毒を徹底の上、前年度に引き続き、活動室などの施設提供業務をはじめ、SPCのノウハウを活用した効果的・効率的な履行がなされた。

ユース・スクエア事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から歌唱の制限等は伴ったが、3団体が活動の発表を行った。活動プログラムについては、内容や活動場所、最低利用人数等の定期的な見直しを行い、利用者の多様なニーズに応える努力がなされた。

社会教育事業については、当初11事業を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、7事業を中止した。

なお、当該施設の社会教育事業は、野外活動型施設の特長を生かし、利用者に魅力のある事業が実施されている。公共性・社会性や都の施策、施設を訪れる青少年等の傾向・特徴等を踏まえた上で、多角的ニーズに応える、より現実や実態に即した事業とするため、引き続き教育庁の専門職員（社会教育主事）によるSPCに対する助言を行っていく。

3 経営状況

SPCの経営状況は、損益計算書によると、当期純利益は16,676千円であった。事業者提案時の計画における当期利益8,711千円を上回っている。

また、貸借対照表によると、負債の合計が192,834千円であった。流動資産は621,109千円であり、流動負債180,231千円を大きく上回っていることから、資金繰りについても健全なものであったと認められる。

以上のことから、令和4年3月末の時点においてSPCの経営状況は健全なものと認める。

業務履行確認の方法等

	方 法	回 数	指 標
業務の履行確認	書類（業務報告書）による確認 計画どおりに業務を行っていることを確認した。 ※ 提出時にヒアリングを実施した。	12回 (月1回)	年間業務計画 ※ 年間業務計画は、業務要求水準、事業者提案、事業契約、その他確認事項に基づき前年度に作成し、都が確認する。
施設の運営及び維持管理状況の確認	現地立入確認 ヒアリング 日報等記録の確認 施設の視察 業務要求水準等に基づき適正に運営・維持管理されていることを確認した。	4回 (1)R3.7(オンライン開催) (2)R3.10(オンライン開催) (3)R4.1(オンライン開催) (4)R4.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
利用者モニタリング	利用者アンケート 事業者が行っているアンケートの内容及び対応をヒアリング確認することにより、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	4回 (1)R3.7 (2)R3.10 (3)R4.1 (4)R4.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
	利用者懇談会 事業者が開催する利用者懇談会の記録の確認により、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	1回 (R4.1～2) アンケート実施	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
社会教育事業履行確認	書類（業務報告書）による確認 事業が計画どおりに実施されていることを確認した。	12回 (月1回)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画及びモニタリング事項 社会教育事業等企画委員会における協議事項等

経営成績について

京王ユース・プラザ株式会社

「高尾の森わくわくビレッジ」開業から17年目となる本年度は、4月から緊急事態宣言などが断続的に発出され、外出の自粛要請や酒類提供・イベントの制限、休業や営業時間短縮等の要請を受けるなど厳しいスタートとなりました。

しかしながら、下半期に入ると、新型コロナウイルスのワクチン接種の促進などで学校団体等の日帰りを中心とした利用が増加に転じ、感染状況次第の不透明な先行きながらも緩やかな回復の兆しが認められた事業年度となりました。この状況のもと、施設では引続き従業員や利用者の安全を最優先に考慮し、政府および自治体の方針に則った各種感染防止策を講じたほか、新たに策定した感染症BCPの周知徹底により、危機管理対策の強化に取り組んで参りました。

管理面では、お客様が安心・快適にご利用いただける施設であり続けるため、高架水槽等の設備 更新や構築物修繕による老朽化対応、体育室の特定天井改修工事および照明のLED化、宿泊室の壁紙・カーテン・レース の抗菌・抗ウイルス化に積極的に取り組み、整備を進めました。

また、営業面では、いまだ収束しない学校教育団体等の宿泊キャンセルに対し、その補完的役割で直前予約を期待できる家族客等に向けたSNS広告や鉄道車両窓上広告の刷新による再掲出、更には少人数向けプログラムの提供を進め、新規顧客の開拓と当月予約客の獲得に努めて参りました。

この結果、前年 を上回る利用者数の獲得により、営業収益は対 前年45百万円増の459百万円、営業費用は対前年50百万円増の440百万円となりました。

利益面では、営業外収益として政府および自治体から営業制限等に対する助成金支援があり、経常利益は対 前年9百万円増の25百万円、当期純利益は対前年6百万円増の16百万円となりました。

損益計算書について

京王ユース・プラザ株式会社

営業収益は、対前年 45,621 千円増の 459,280 千円を計上しました。増減内訳は、東京都からのサービス購入料は計画修繕収入の増等により 28,285 千円の増加となりました。

また、現地収入は利用者増による宿泊収入の増等により 17,335 千円の増加となりました。

営業費用は、対前年 50,934 千円増の 440,411 千円を計上しました。主な支出内容は売上原価、業務委託費、水道光熱費、減価償却費等で、増減内訳は売上原価 19,193 千円の増、業務委託費 7,650 千円の増、水道光熱費 7,232 千円の増、減価償却費 7,168 千円の増等によるものです。

一般管理費は、対前年実績とほぼ同じ 13,399 千円を計上しました。主な支出内容は役員報酬、業務委託費等です。業務委託費は主に京王アカウンティングに対する経理業務委託費です。その結果、営業利益は 5,469 千円となりました。

営業外収益は 21,387 千円で、受取利息の他、N T T ドコモ・ソフトバンクのアンテナ設置料、休業要請等・営業時間短縮要請等を行う大規模施設に対する協力金等を計上しております。

営業外費用は 1,631 千円で、休業要請営業時間短縮要請等に対応するための特別業務委託費等を計上しております。以上の結果、経常利益は 25,224 千円となりました。

特別利益は 499 千円で、宿泊施設非接触型サービス等導入支援補助金を計上しております。特別損失は 499 千円で、上記補助金で購入した資産に係る固定資産圧縮損を計上しております。

その結果、税引前当期純利益は、25,224 千円となりました。法人税、住民税及び事業税と法人税等調整額を差し引いた当期純利益は 16,676 千円となりました。

貸借対照表について

京王ユース・プラザ株式会社

当期末の総資産は、921百万円となりました。前期末と比較して、20百万円の増加となっております。増減の主なものは、資産の部で運用預け金が90百万円の減少、未収入金が37百万円の増加、有形固定資産が64百万円の増加です。純資産の部で当期純利益の計上により繰越利益剰余金が16百万円の増加です。

各科目の主な内容は、以下のとおりです。

流動資産は、対前年43百万円減の621百万円となりました。

現金及び預金は、ほとんどがお客様からお預かりしている予約金です。

運用預け金は、余剰資金を京王電鉄グループ内キャッシュマネジメントシステムで資金運用をしております。損益計算書の営業外収益・受取利息はこの資金運用によるものです。

未収入金は、第4四半期分サービス購入料等です。

商品は、売店の商品です。

貯蔵品は、パンフレットや収入印紙等です。

前払費用は、火災・傷害保険料の翌年度分等です。

その他の流動資産は、東京都への立替金等です。

固定資産は、対前年64百万円増の300百万円となりました。

有形固定資産は、空調換気設備です。

繰延税金資産は、事業税、事業所税および一括償却資産相当分です。

長期差入保証金45百万円は、東京都への契約保証金です。

以上により、資産の部は対前年20百万円増の921百万円になりました。

次に、流動負債は対前年10百万円増の180百万円となりました。

リース債務は、電気自動車等充電設備機器の1年以内返済分です。

未払金は、京王電鉄への業務委託料等の未払分です。

前受金は、お客様から預かっている予約金です。

預り金は、館内レストラン（レストラン京王）の売上金です。

前受収益は、翌年度分のアンテナ設置料等です。

固定負債は、その全額が電気自動車等充電設備に係るリース債務で、対前年6百万円減の12百万円となりました。

以上により、負債の部は対前年3百万円増の192百万円となりました。

最後に純資産の部ですが、資本金、資本剰余金は増減なく、期首利益剰余金に当期純利益16百万円を加算した結果、純資産の部は対前年16百万円増の728百万円になりました。